

牧師室から (2021.8.15)

8月15日は終戦記念日である。終戦の日というか敗戦の日というかについては様々な意見があるだろう。玉音放送がラジオから流されたのはその日であったが、大戦の終結が調印されたのは、9月2日であった。当時としては新しいメディアによる国民への告知であったが、現代はインターネットが普及してきており、社会の出来事の流れや歴史記述においても新しい時代に入って来ていると言える。

またこの日は、隣国の韓国では「光復日」とされている。35年に渡る植民地支配から解放されたことを祝っている。米国においても先の大戦については「リメンバー・パールハーバー」と言うのがどこかにあり、それに対して日本は「ノー・モア・ヒロシマ」であろう。歴史というのが相対的に人々に憶えられているのである。人は他者に与えた苦しみは結構鈍感なところがあるが、逆に受けた苦しみや痛みというのはなかなか忘れないものである。

小生は戦争の実体験はないが、今でも世界各地で起こっている紛争などを、メディアを通じてリアルタイムで知ることができる。その際、大なり小なり戦争というものが、根源的には人の罪に起因しているということを思い起こしている。声を高く上げて平和を訴えていくのも大事であるが、先ず、個々人が自分自身の心に内在する罪に目を向けていくことが、平和実現への第一歩ではないかと思っている。

(鈴木淳一牧師)